特別
へ13
1465
5

明へ遠 13
1465
巻 35

曲亭馬琴作

四遍 四遍摺心学草紙

憲川春町戯作

いも太ろう 上下
芋たろう屁ひり花咲

昔時朋友山東何ごゝ。善悪一雙の玉を磨ひて。世々輝くに已よ三遍ふ暨ぶら。這須耕書畫の主人。余ようその四遍ふ霑む。烏虖我川童子の屁むとゆゝ。笑ひ和子の眼玉を歟ん今や刺玉三遍廻く煙竹包舗の門ゆ漬る。洗海八ゆ把ゝゝゝ。苗相如も全くゝゝ。故ゝ銅の礫ゆ返くゝ辞されゝも えられゝ玉くゝの富ゆ塞く。是ゆ戯作の撫むゝゝ。迺書肆の親むよ授く

丙辰春 馬琴識

吉

凶

不許焼琴煮鶴之俗人菴中

雕寓慢筆

目
欲
生
脳
手
首
脳
肝

玉
金
派
慈
實
本

首
生
金
底

凶
眼
手
膳
色

生
樂

喜
眼

色
色
色
生

色

實

珠
珠
珠
珠
珠
珠

百
心
實

金
金

實

東郭先生

元來大事身闘

曲亭馬琴作

【第十五丁大吉】

惡王齊魔道
善魂如福神
一心堪忍袋
飛鉾打愚人

屁上屁我唯可屁糞

芋

芋太郎
いもとらふくろのもの
このすぶもの
いもそくどのく
ひとりぼつこ
里いもかまう

とうぶいく
屁をこきまくるところゑ
きりべそのつきにいろはてよとの川べの
水車ぢの
ようべくこの
のえーまで
とうぶいく

いもの屁を
しりくべを
しりあつす
やこや
よりとおもへたり

さて白太郎
ふ上のさろふ
あ〜祇と三万三
千三百三列と
ひふ三りるくとの
ひさごとしふ
びて多れども唐の
まま白八酒一斗秋
のんで詩を百首人
つくるこの白太郎八
いもいもぐるぐるぐるで
ゆすつに花一万八千八心屁一人
とい気と、ものくまをつをこみ
たるくの屁ものはかふふりを
ん屁まるいきとのをにのりあ
んぶつ人ゆすを部がへふ
むてとびされ色きさちんを
ありかる
これがかーと屁ろまる〜
とりまさこのさきはどうる

屁臭ものとそれかん
人ごとにくさい
徳川春町戯作

南風ふきて
りきまれり

王

実語教に
人に学ばざれば
古人の言
日本の大皇へ
王にはなれば
水しぼうの
まてと
さらば
ゆかいの浦につきに
ところにへさき
ともべとつけよ

芋太郎屁日記出来
憲川春町戯作